

令和2年度第4回鎌倉市障害者福祉計画推進委員会 会議結果概要

日 時	令和3年 3 月 15 日(月) 18 時 00 分から 19 時 00 分まで
開催場所	鎌倉商工会議所 301 会議室
出席者	<p>[推進委員会委員(名簿順)]</p> <p>○11名出席</p> <p>岸川委員(委員長)、太田委員(副委員長)、木村委員、笠間委員、竹田委員、小澤委員、 大津委員、橋本委員、古塩委員、神田委員</p> <p>[鎌倉市障害者福祉計画推進会議 幹事委員]</p> <p>○6名出席</p> <p>[事務局]</p> <p>○5名出席</p> <p>以上、21名出席</p> <p>「鎌倉市障害者福祉計画推進委員会 委員名簿」を参照</p> <p>[傍聴者]</p> <p>なし</p>
配布資料	<p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none">・鎌倉市障害者福祉計画推進委員会委員名簿・令和2年度第4回鎌倉市障害者福祉計画推進会議 論点概要(※当日配布)・令和2年度第3回障害者福祉計画推進委員会会議結果概要・(資料1-1)第6期鎌倉市障害福祉サービス計画(案)・(資料1-2)第6期鎌倉市障害福祉サービス計画(案)パブリックコメント対応整理表・(資料2-1)「第6期鎌倉市障害福祉サービス計画(案)」の主な修正箇所一覧・(資料2-2)第6期鎌倉市障害福祉サービス計画策定スケジュール

<p>会議概要</p>	<p>1 パブリックコメントの結果について</p> <p>事務局より、パブリックコメントの結果について、資料1-1、1-2に基づき説明。</p> <p>2 第6期鎌倉市障害福祉サービス計画(案)について</p> <p>事務局より、第6期鎌倉市障害福祉サービス計画(案)について、資料2-1、2-2に基づき、説明。</p> <p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員長)修正内容についての資料は、とてもよくまとめられていると思う。 ・資料 2-1 の9番目、計画相談支援の見込み量について、今後の方針としては、場合によっては相談支援を利用せずセルフプランでサービスを利用することを認める方針であるという部分が削除という所が少し気になった。これは、セルフプランより計画相談の方が推奨されていて、おそらく計画相談があることで情報共有がされて、支援が必要な人に何かあった時に相談支援機関が行っていろいろな支援ができるようになるのだらうと思うのだが。この意見が出た背景等があれば教えて欲しい。 ・(事務局)これまで鎌倉市としても相談支援の方になるべく加入していただき、サービスをより適切に利用していただきたいという方向で考えてきたところである。この考えは基本的には変わらないが、相談支援事業所の方の人材の不足等があり、基本的には相談支援の方を利用していただきたいのだが、全員が相談支援をしなければならぬという方向にすると、より相談の方を利用しなくてはいけない方が利用できなくなる状況も発生してしまうことも考えられるので、自分でセルフプランとして立てて利用していけるように、市の方でもそれを支えながら、それでやっていける方に関しては、しっかり判断しながら認めていきたいと考えているので、その方向性も加味して現状の維持というところに関しては、理解していただければと思っている。 ・(委員長)具体的には、改めた時にどういう表現になるのか。 ・(事務局)40 頁の下から3行目、「現在の状況を維持できるように」というところだけ取らせていただければと思っている。 ・(委員長)計画相談支援の難しさというのはどこも同じなのだなと感じている。それは人材不足もあるし、報酬のこともあると思う。点数、さらにモニタリングがあって、事業が運営できるかというのには大変厳しい状況があると思うので。書き方はこれでいいと思う。 ・課題としては、計画する人が少ないとか、人員不足であるとか、そういった要因が理由としてこの計画に含まれるというのはどうかなと思った。論点としては違う。人材や計画を推奨するための取り組みと、計画の見込み量を増やすか増やさないかは、全く違う議論だと思うので、そこはごっちゃにしない方がいいのではないかなと思う。 ・(委員)資料 2-1 の 5 番目、発達支援コーディネーター養成事業というのが書かれているが、これについての説明も具体的に書いていただいた方がいいのかなと思う。これが実際に職業として成り立つのかとか、ボランティアレベルのお話なのかとか、鎌倉市が指導しますということになると思うが、どういう形の育成になるのか、目指しているのか気になる。
-------------	--

- ・(委員)27頁の記載を少し修正させていただいている。どこまで書き込めるかわからないが、質問にあった発達支援コーディネーターについては、ここに少し記載してある。実際に幼稚園や保育園等において支援を地域で行っている。今現状としては、鎌倉市内で、発達に課題があったり支援を必要としているお子さんが幼稚園保育園に多く在籍しており、園でいろいろ支援をさせていただいているという認識である。発達支援室としては、園の先生たちが園の中で支援ができるように、そういうための知識や技能を身につけていただきたいということが一つと、巡回相談等では発達支援室との連携をしているが、園といろいろな機関とのコーディネートをするような役割の方の育成をして、縁者の支援がよりスムーズになるようにと考えている。この当該事業については、既に平塚市などの近隣市も含め色々な市町村で既に取り組みが始まっていて、園の中で解決できるお子さんは園で解決して、より専門的な支援が必要な方は発達支援室のようなところにつながって専門的な支援を受けるといったような、少し役割分担が進んできているという実績も聞いている。鎌倉市でも、そういう取り組みをすることで地域での支援がスムーズに行えるようにというところで考えている。
- ・(委員)保育園や幼稚園などの未就学児を対象にということであったが、こちらはその後、小学校などに拡充させていくのか。
- ・(事務局)発達支援コーディネーターに関しては、保育園や幼稚園との連携の強化というところなので、発達支援室が主催している。学校の方は、既に教育指導の方に配置されている者もあり、逆に言えば、保育園や幼稚園には、そういった役割の職員がいないので、地域支援のところとして考えている。
- ・(委員)管轄が違うことは重々承知している。1人のお子さんをみていく中で、そこに連携があるのかなと思ったので。
- ・(事務局)もちろん、発達支援室でコーディネーターの方と連携をとって支援している。実際にこの発達支援コーディネーターが養成された時に、その幼稚園のコーディネーターさんが学校との連携でどういう役割を果たすのかということに関しては教育委員会と協議しなければならない。
- ・(委員長)資料編が付いているのは、すごくいいと思った。また、制度改正のプロセスが垣間見れるというのはとてもいい。この計画がどういう位置づけなのかというところは、読む方に十分理解していただくにはいけないなと思われた。次の計画では、用語集の用語の選択については、もう少し身近に感じられる言葉が入っていればいいなと思う。例えば、サービス等利用計画や就労支援事業B型等が入っていない。次の計画策定の時には、用語について吟味してもいいのかなと思う。
- ・(委員)新しい取り組みがここに色々な言葉で出てくるのだが、障害者支援協議会の方で包括的ケアというところを話題にしていこうと言ったときに、委員の中で出たのがみんなのくらい情報を共有できているかという意見だった。共生社会とか、包括ケアシステムとか、何となく社会がこうなっていくのだと漠然としたイメージをみんな持っている。それぞれの専門分野ごとに理解の深度も違って、それをいざという場面で、それぞれが持っている情報をまとめるというのが非常に難しいなというのが話題に上がった。一つ一つの情報をわかりやすく、切れ間ないのが一番だと思っているし、それぞれの分野が立ち止まってちゃんと見られるように、情報をどうやって共有するのかについては、広報的なこと、いろいろな制度事業をどう見てもらえるのかというのがいろいろ分かりやすく定義されていくということが、この計画を基にもっとできていくといいなと思う。
- ・(委員長)サービスの見込み量のところで、就労支援等の内容についても説明されている。活用したい活動計画も資料編に付けられた。

3 その他

- ・（委員長）第6期が2021年度から2023年度まで3年の計画になる。その後で、基本計画が2023年度からとなる。おそらくこの計画が終わってもう一度計画を作るときには、世の中の状況がもっと変わっていると思う。8050問題は今から5年前は知っている人は少なかったが、今は日常語に変わっている。さらに障害のある方の高齢化も進んでいき、医療的な支援を必要とするお子さんも増えているというデータがあると思う。3年後、5年後がどうなるかは、コロナを含め想像がつかない。これから何が起こるか分からないが、生活で支援を必要な方というのは法律などが変わっても変わるわけではないと思うので、支援を必要としている人たちと、それを取り巻く地域の方たちの幸せを考えていかななくてはならないのだろうと思う。そういう意味で大変重たい計画だと思う。この状況の中、対面で皆様と意見交換できたということはありがたいことだと思った。
- ・（事務局）一年間有難うございました。次年度は、年2回開催する。令和3年の8月中旬と令和4年3月中旬を予定している。
- ・（委員長）これをもって第4回鎌倉市障害者福祉計画推進委員会を終わりにしたい。

以上